



スカイプ授業



ICTを使った授業

教職大学院の 新たな取り組み

—新設2コースがスタート—

平成28(2016)年4月、教職大学院における全国初の試みとして、兵庫教育大学では新たに「教育政策リーダーコース」および「グローバル化推進教育リーダーコース」を開設しました。両コースの学生はいずれも現職教員または教育長等の多様な背景を持っていることから、その教育内容はそれぞれのニーズに応じた多様な学びを提供するという実にユニークなものとなっています。



海外研修での個人指導



神戸での集中講義

両コース共通基礎科目

| | | |
|--------|--------------------|-------------------------------------|
| 共通基礎科目 | 教育課程の編成・実施に関する領域 | カリキュラム・マネジメント |
| | 教科等の実践的な指導方法に関する領域 | 多様な授業方式・形態とその支援体制 |
| | 生徒指導、教育相談に関する領域 | 生徒指導の学校体制と教育委員会の危機管理、特別支援教育の実際と課題 |
| | 学級経営、学校経営に関する領域 | 地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策、教育の国際化戦略と学校経営 |
| | 学校教育と教員の在り方に関する領域 | 現代教育の理念と背景、地域と学校、グローバルイシュー論 |

教育政策リーダーコース

| | | |
|------|----------|--|
| 専門科目 | 教育政策導入領域 | 教育行政マネジメント特論演習Ⅰ(情報収集・分析・構想)、Ⅱ(企画・実行・判断)、教育行政リーダーシップ特論演習Ⅰ(組織人事)、Ⅱ(理念浸透) |
| | 教育政策基礎領域 | 教育政策実践論、教育行財政の立案と分析、地方自治体行政論、教育法規の理論と実践、生涯学習特論、学校論 |
| | 教育政策研究領域 | 教育政策課題研究 |
| 実習科目 | 教育行政実践領域 | 教育政策トップリーダーインターンシップⅠ(海外教育行政機関)、Ⅱ(自治体行政機関)、Ⅲ(自治体教育機関)、Ⅳ(他自治体) |

グローバル化推進教育リーダーコース

| | | |
|------|------------------|--|
| 専門科目 | グローバル基礎領域 | 国際理解教育、世界の教育、国際教育協力、フィールドワーク・プレ演習 |
| | グローバル授業実践領域 | 実用外国語演習、英語を活用した授業研究、英語を活用した論理的思考、外国語による表現法 |
| | グローバル・フィールドワーク領域 | グローバル・フィールドワークⅠ(海外)、Ⅱ(国内) |
| | グローバル教育実践課題領域 | グローバル教育実践課題研究 |
| 実習科目 | グローバル教育実践領域 | グローバル教育実践実習Ⅰ(現任校)、Ⅱ(現任校以外) |

※授業科目は予定であり、変更となる場合があります



先導研究推進機構
教育政策トップリーダー養成カリキュラム研究開発室教授
教育政策リーダーコース長
日渡 円
ひわたし まどか

教育行政にイノベーションを起こす人材を

学校教育は身近に感じますが、教育行政は一般市民には疎遠というイメージがあります。最近、特に教育行政の責任の不明確さが国民的話題となっており、加えて社会状況と学校を取り巻く環境の急激な変化を受けて、教育行政に係る法律が60年ぶりに改正されました。教育行政をより住民に近づける工夫や、市町村長の教育への関与の増大などが大きなポイントです。

15人が入学しました。その内訳は、現職教員5人、校長等の学校管理職6人、現職教育委員会幹部3人、退職教育関係者1人となっています。

多忙を極める本コースの学生は仕事を休んで大学院で学ぶことはできません。そこで、教職大学院では全国初の授業形態として、教員が出張しての授業、VOD視聴による授業、大学での集中講義およびフィールドワークを基本としています。地元で通常の業務に携わりながら学ぶことができ、仕事へのダメージが少ない修学形態です。教員は本学の専任教員6人に加えて、この分野では日本を代表する研究者7人を非常勤講師としてそろえました。

これら社会の要請を背景に、「教育政策リーダーコース」は日本の教育行政にイノベーションを起こす人材の育成を目指して設置されました。本コースのプログラムの基本構造は、「能力プログラム」「知識プログラム」「実践プログラム」から構成されており、教育行政のリーダーに必要な理論や知識の学修および教育行政を通じた課題解決方策の検討、自治体や海外でのインターシンプなどが主な教育内容です。

さて、気になる修学形態と指導体制について。今年度は、下図の通り、北海道から沖縄まで全国から学びへの熱い意欲とともに、



不可能です。そこで、本コースの特徴である「能力プログラム」の主要な部分を「教育行政トップリーダーセミナー」とし



先導研究推進機構
グローバル化推進教育リーダー養成カリキュラム研究開発室准教授
グローバル化推進教育リーダーコース長
川崎 由花
かわさき ゆか

人間力を備えたグローバル化のスクールリーダー育成

今年5月、「G7倉敷教育大臣会合」の「倉敷宣言」における「Diversity Education」教育における多様性の尊重)では、「異なる文化の人々と協働することができる力やグローバル化に対応した能力を身につけることが極めて重要である」と謳われました。

我が国では、平成8(1996)年7月19日中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第一次答申)」において「広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること」との提言が

出されており、以降、小学校5、6学年における「外国語活動」の必修化、「スーパーグローバルハイスクール」に関する研究開発、国際バカロレアの導入など、さまざまなグローバル化への取り組みが行われています。

これらの背景を踏まえ、学校現場のグローバル化を牽引する実践力を備えたスクールリーダーの育成を目的として、3年以上の教職員経験者を対象に、「グローバル化推進教育リーダーコース」は設置されました。

本コースでは、世界の教育等の知見を深め、それらを学校現場での教育に結び付ける実践方法を探ること、論理的思考を踏まえた英語力を高めることに主眼を置いており、「専門科目」の「グローバル基礎領域」

で理論を修得し、さらに「グローバル授業実践領域」「グローバルフィールドワーク領域」「グローバル教育実践課題領域」において実践力を身に付ける内容となっています。特にフィールドワークでは、現地(海外)における教育活動実践、児童生徒を対象とする異文化理解のための海外研修プログラム

の企画など、徹底した実践トレーニングを行います。

また、仕事と学業の両立が図れるよう、柔軟な学修形態としています。授業は、集中講義・演習、VOD視聴による自宅学習型講義、およびフィールドワークの3形態から成り、集中講義は主に土曜日と長期休業期間中に設定されています。また、実践英語をはじめとする個別指導はスカイプなどを活用し、通学による学生の負担が軽減さ



地域の教育行政リーダーに求められる「品性」の涵養を

共通基礎科目「現代教育の理念と背景」担当



先導研究推進機構
教育政策トップリーダー
養成カリキュラム研究開発室特任教授
ほりうち つとむ
堀内 孜

「教育政策リーダーコース」は、新教育長の知識、専門性や意思決定能力を育成する課題に応えるものとしてスタートしました。これまでも増して新教育長には教育や教育行政の知識や識見、教育行政実務の経験や執行能力が求められます。でも、それらはどのようにして育成できるのでしょうか。本コースでは、斬新な科目群を用意し、また新規に開発した方法をもって授業展開を想定しています。

こうした修得内容、履修方法を前提としつつ、私が提案し、提供するのには、地域の教育行政リーダー、教育リーダーたる教育長が、首長や職員、校長や教職員だけでなく、保護者や地域住民、児童生徒にも信頼され尊敬される「我が町の教育の責任者」と目されるべき「品性」を磨き、身に付けることをねらいとする科目（「現代教育の理念と背景」）です。教育長は単に教育のリーダー、行政のリーダー



であってはなりません。安心して地域の教育、子どもたちの教育を任せられる「品性」「品格」が求められます。

この科目は、全国に出向いて講義し、またVOD教材視聴で自主的、主体的に学習することによって、現職の教育長を中心とする受講者が、教育とは何か、直面する教育課題がどのような構造と背景を持っているかが理解できることを企図しています。

この科目も含めた多様で多面的、多次元的な履修を通じて、また全てにおいて自主的、主体的、能動的に学修することによって、地域の教育行政リーダーとして求められる確たる教育の理念、識見を持った「品性」を涵養することが本コースのねらいとするところです。

↓として、全国7カ所で開催し、昨年度は150人を超える教育長をはじめとする教育行政のリーダーが参加しました。学生はこのセミナーに参加することで、関係科目の単位の一部となります。

教育行政
トップリーダーセミナー
第1回は7月～8月に、第2回は10月～12月に全国7会場
で2日間ずつ実施。詳細は兵
教大ホームページ(<http://www.hyogo-u.ac.jp/event/012182.php>)を参照



グローバル社会に必要なのは積極性と好奇心、そして英語

専門科目「実用外国語演習」担当



先導研究推進機構
グローバル化推進教育リーダー
養成カリキュラム研究開発室助教
クレア グレイディ
Clare GRADY

授業の概要

私が担当する「実用外国語演習」はコミュニケーション能力の向上を目的とした授業です。異文化を持つ人々と交流し、自分の世界を広げる上で英語は大事なツールです。学生の皆さんには、多少の間違いは気にせずに、積極的に外国人と会話を楽しみ、自分の意見が伝えられるようになってほしいと思っています。

この授業では、最新のトピックや学生の興味のあるテーマを取り上げて、英語で内容を理解し、自分の意見を述べるトレーニングを行います。基本は個人レッスンおよび少人数クラスの授業形態をとり、授業日時は学生と調整しながら実施しますが、遠隔地でもスカイプを利用してレッスンが受けられる体制も整えています。

学びのポイント

私は16年間米国の学校で学び、兵教大着任前の3年間は日本の小・中学校でALTとして子どもたちに英語を教えていました。そこで感じた「日本の学校が米国の学校と大きく異なる点」は、児童生徒の授業中の発言がとても少ないことでした。授業など学校でのさまざまな場面で活発に発言できる積極性と好奇心が身に付いていれば、グローバル社会で外国の子どもたちと対等に交流することができるでしょう。私は国際バカロレア認定校の高校を卒業しましたが、そこで学んだことは「疑問を持ちながら自分で考える」ということです。国際バカロレアで身に付けた「考える力」は、今現在、日本という異文化の中で暮らす私にとって必要不可欠のツールなのです。

このコースでは、そういった「考える力（論理的思考）」や異文化理解、グローバルな視点を身に付けることに重点を置き、子どもたちを世界というフィールドに導く教員を養成します。



↓れるよう配慮しています。

グローバル化推進教育リーダーコースでは、英語力や実践力はもとより、もの考え方や異なった基準への対応などを包括的に捉え、力強い人間力を備えたスクーラー

リーダーを育成します。本コースの修了生たちがリーダーとして学校現場のグローバル化を推進し、その先には、グローバル化が加速する社会をしなやかに生きる児童生徒が育つことを期待しています。

学び続けること

私自身、校長3校、7年目。学校におけるさまざまな問題に^{たいじ}対峙し、加速度的に変わる教育を含めた社会情勢にどう対応していくべきか。教職員や生徒も含めて、時に答えのない問題に向き合うことも多くなる中で、トップリーダーとしてどう在るべきかを考え悩むことが多いにもかかわらず、なかなか学ぶ機会が少ないと感じていました。そんな時にこのコースの新設を知り、思い切って挑戦してみることにしました。

現職のままで学ぶことのできるこのコースならではの長を生かし、教育界のトップリーダーである講師陣の指導を受けながら兵教大で学ぶことで、勤務する学校だけでなく地域の活性化にもつながる変革型の思考力や行動力を身に付けられると考えています。

学び続けることの大切さを身をもって示していけるといいなとも思っています！



たに ぐち ふみ こ
谷口史子さん
専門職学位課程
教育政策リーダーコース1年
宮崎県延岡市立旭中学校校長

私の夢(目標)を実現できる 学びのシステム

教育政策リーダーコースの開設は、私が大学卒業後40年間、思い続けていた夢を実現してくれました。大学院で学びたい、生涯にわたって学びたい、今の私に必要な学びをしたいという夢(目標)を。

教育委員会制度で、教育長が果たすべき役割と責任はますます重くなりました。教育政策を形成し実行する最高責任者として、理論と実践を融合させながら自分の能力や知見をより高めることが必要となりました。教育政策リーダーコースでの学びや経験は、それを可能にしてくれると思います。そのため、しっかり学んでいく決意です。

教育長の業務は多忙です。学生と教育長をどう両立させていくか、北海道に住む私がどうやって兵教大で学ぶのか。この点でも、教育政策リーダーコースでは、私の夢(目標)を実現できる学びのシステムを用意してくれています。

学割とシルバー割を併用しての(笑)学生生活や、大学教職員の方々や同じ院生との交流も楽しみながら、オッサン学生は2年間頑張ります。皆さまよろしく願っています。



みずの かず お
水野和男さん
専門職学位課程
教育政策リーダーコース1年
北海道東神楽町教育委員会教育長

学生の声

学び続ける
ことへの
挑戦

一念発起！ 20年越しの憧れへの挑戦

大学で国際関係論を学び、大学院での学びに強い憧れの気持ちを抱いていましたが、いざとなると仕事を離れる決心がつかず、さまざまな迷いから取り組むべきテーマが決まらないまま20年以上の歳月が過ぎてしまいました。

複数の職場を経験後、通信制の学部で英語英米文学を学び、私学で教壇に立つようになってから数年が経ちました。以来、国際教育に携わってきましたが、急速な情報化の進展に伴い、あらゆる環境が大きく変化していく中で、私自身がグローバル化に対応できる視座を模索する必要性を痛感するようになりました。そして、一念発起しグローバル化推進教育リーダーコースで挑戦しようと決心するに至りました。

講義では毎回、先生方の高い専門性や学識の深さに感銘を受け、わくわく興奮しながら学んでいます。そして、何よりも熱心なご指導に心から感謝しています。教育政策リーダーコースの方々から刺激を受けることができるのも大きな魅力です。



まる やま ゆき ひろ
丸山幸宏さん
専門職学位課程
グローバル化推進教育リーダーコース1年
夙川学院中学高等学校教諭

学び(研究)と仕事が 最短距離で直結

現任校では、平成26(2014)年度から国立高等専門学校(高専)を所管する国立高等専門学校機構から「グローバル高専モデル校」に指定され、学校を挙げてハード・ソフト両面での国際化の基盤づくりを進めており、私は主として学生のモビリティ・プログラムの開発・整備に取り組んでいます。

グローバル化推進教育リーダーコースでは、同プログラムの発展的継続に向け、①正課カリキュラムや事前・事後研修と連携し体系的に学ぶ環境、②適切な評価方法などの検証を進めたいと考えています。本コースを志望した背景には経験豊かな教員やフレキシブルな履修形態、アクセス至便のキャンパスももちろんありますが、同じ共通基礎科目を履修する教育政策リーダーコースが並行に走り、全国の教育長など教育政策の中心にいる方々と定期的に意見交換ができるのも大きな魅力の一つだと考えています。



みずの ゆう き
水野裕貴さん
専門職学位課程
グローバル化推進教育リーダーコース1年
国立明石工業高等専門学校特命助教
(国際化推進担当)